

1. テーマ

「家政婦の技術向上を目指した教育研修の実施」

～家政士の試験にも役立つ～

2. 趣旨

「家政婦（夫）の技術向上を目指した教育研修の実施」をテーマに、家政士検定受験にも役立つ内容として、本年度は「福祉用具を使用した食事介助及び排泄介助」についての知識、技術の習得、向上を目指して、教材による学習をした後、スプーン、フォークを使つての食事介助作業、箸による食事のサポート、椅子からポータブルトイレへ移乗し再び椅子に戻るまでの介助作業などの実技演習をします。

本セミナーは、特別会員をはじめ、高齢者や障害のある方等を在宅内で介護されているなど、その知識、技術を必要とする不特定多数の方々が参加されることを期待するとともに、そのための働きかけを行います。

3. 目的

食事介助および排泄介助

4. 研修カリキュラム

内容		時間配分
役員等の開催挨拶		5 分
座学「介護の基礎知識」		10 分
演習	福祉用具の説明	5 分
	介助演習、確認事項の説明	10 分
	DVD 視聴	15 分
	実習「課題（食事介助）」 「課題（排泄介助）」	130 分
質疑応答・アンケート・閉会挨拶等		5 分
合 計 時 間		180 分 (3 時間)

令和元年度 介護家政サービス向上セミナー

テーマ

「家政婦の技術向上を目指した教育研修の実施」
～家政士の試験にも役立つ～

- (1) 座学「介護の基礎知識」
- (2) 演習「食事介助、排泄介助」
 - ・福祉用具の説明
 - ・介助演習、確認事項
 - ・DVD 視聴
 - ・実習（課題：食事介助、排泄介助）

介護の基礎知識

(ケアサポートの心がまえ…家政士養成テキスト第3巻より)

①お客様の指示に基づきケアサポートを行う。

家政婦はお客様の指示に基づきケアを行います。ただし、以下の点にも気を配る必要があります。

- ・ 介護を受けることが初めてのお客様、ご家族から、どうしたらよいか提案を求められることがあります。家事サポートと異なりケアサポートには型があり、そのお宅の流儀に左右されることが少ないために、家政婦が適切な差し出がましくないアドバイスを行うことも時には必要です。

※ お客様が介護保険を利用しており、ケアマネを中心にチームでサポートをしている場合は、チームの動きを乱さないことも肝要です。

- ・ お客様の指示がご自身の自立支援を損ねるおそれのある場合、折を見て、やわらかく、丁寧に自立支援の效能をお話することもお客様のためになります。お客様のなかには訪問介護の自立支援が受け入れられなくて家政婦をご利用になる方もいらっしゃいますので言い方にはくれぐれも注意が必要です。

※ 上記の「自立支援」とは、お客様のできることまで何でもかんでもして差し上げることによって、お客様のできないことが増えてしまうことを防ぐ支援を意味します。

②お客様の個別性を尊重する

対人援助技術の7原則（Biestek seven）で一番初めに唱えられるのが、個別化の原則です。サポートを受けるお客様のニーズは他の人のニーズと似ているように思えても、ニーズはそれぞれその人独自のものなのです。

経歴が長い家政婦ほど過去の自分の経験に自信を持ちお客様のニーズの個性を見過ごすケースが散見されます。

ニーズには身体的、心理的、経済的、文化的などの個性があることを十分に承知しておきながら、お客様に適した援助方法を考えてケアするようにしましょう。そのため、お客様の声に謙虚に耳を傾ける必要があります。

③お客様の生活習慣を尊重する

お客様のそれまでの生活習慣を急に变えるようなケアを提供してはなりません。たとえ時間がかかろうと、利用する本人やその家族のそれまでの生活習慣を尊重しながらケアを提供するよう心がけましょう。

本人のペースに合わせたケアは、家政婦の得意となるべき点で、時間に追われる訪問介護ではできにくいことです。ゆめゆめ家政婦の都合でお客様の生活習慣を乱さぬよう注意が必要です。

④守秘義務の厳守

家政婦のケアサポートは長時間のケースが多く、家族の一員としてサポートを行うため、お客様、家族の個人情報を深く知ってしまうことがあります。知れた個人情報は、決して他人に漏らしてはいけません。

お客様に過去の事例で提案する際も、実名、住所は伏せ、どこのお宅の例か分からないようにしてください。実名で説明すると、お客様は自分のことも他所で話されると感じ、不快な思いを抱いてしまいます。地域の名士、有名人宅でサポートをする場合、つい他人に話したくなる衝動にかられますが、絶対に慎んでください。SNS へのアップも、了解をとることも含めやめてください。

お客様やその家族との信頼関係を築くためにも、プライバシーを尊重し、プロとしての守秘義務を必ず守りましょう。

⑤チームワークを守る

ひと昔前に比べると、家政婦の就業スタイルも変わり一人の家政婦がお客様宅に泊まり込むケースが減り何人かの家政婦で交代にサポートするケースが増えています。この場合、お客様の状態を共有することが求められます。回覧ノートを置くなど、お客様に提案をすることも必要です。同じお宅でサポートを行う家政婦のミスをあげつらっては良いチームワークは築けません。

すぐれた家政婦は自然にお客様に分かります。（囊中の錐を心がけましょう。）

⑥ボディメカニクス

家政婦の中にはケアサポートについて体系的な教育を受けておらず、自己流のやり方で体を痛める方がいます。その場合、仕事に入れなくなるばかりでなく、急な交代で紹介所に迷惑をかけ、慣れない交代家政婦の訪問でお客様にも不便をかけます。自分の体に負担をかけない介護技術を学び、行うことが求められます。

⑦報告、連絡、記録

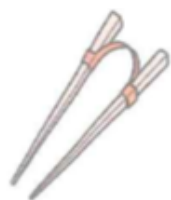
報告、連絡、記録は必要に応じて行います。簡潔を旨とし、結論を先に述べると相手に伝わりやすいです。

5W1H（いつ、どこで、誰が、何をした）を常に頭に描きながら話している間に論点がずれないように気をつけましょう。

福祉用具

1、自助具

ピンセット型箸



長柄付きスプーン



コップホルダー



スプーンホルダー
(ユニバーサルホルダー)



哺乳用スプーン



曲がり付きストローと
ストローホルダー



ふた付き・吸口付きコップ



チューブ

管をつぶさず、胸に止め付ける



【イラスト提供】日本工業出版株式会社

2、ポータブルトイレ

プラスチックタイプ

軽く、値段も手頃なタイプ
洗浄等のお手入れが楽に。



家具調タイプ

デザインが木彫の
ため、落ち着いた
雰囲気になります。



【イラスト提供】日本工業出版株式会社

介助演習 課題 1 「食事介助」

確認事項

1、介護する方の状況（麻痺、他）をよく理解する。

山田太郎さん 男性 右片麻痺 失語症

※利用者の麻痺のない側で介助

※失語症の方には、Yes、No で答えられる「閉じた質問」を

※利用者は右利きです

2、健康状況確認

1) あいさつ

2) 気分を尋ねる

3) トイレを済ませたか確認

4) 座り心地確認

3、介助内容を説明する

4、手を拭く

5、安定した姿勢

6、食事をお持ちする

1) 茶碗等の位置の確認

7、食事の説明

6、介助

1) お茶から勧める

2) お箸の使用を勧める

演習課題 1（食事介助）

山田太郎さんは、昼ごはんを食べるために食堂のテーブルまで移動し、イスに座っています。

食事はスプーン、フォークで何とか食べられます。

エプロンは、既に身につけています。

山田さんの状態を確認し、箸も使ってもらいながら食事の介助を行ってください。

（右片麻痺、失語症）

介助ステップ	介助内容
1、健康状態 確認	（立位置：正面）（目の高さを合わせる）【図1】 ・「山田さん、こんにちは」 ・「ご気分はよろしいですか？」 ・「トイレは済ませましたか？」 ・「しっかり座っていますか？」
2、介助内容の 説明	・「これからお食事の用意をさせて頂きたいのですが、よろしいでしょうか？」
3、手を拭く	・「エプロンをテーブルの上に出させていただきます」【図2】 ・「手を拭かせて頂きたいのですが、左手を上げて頂けますか？」 ・タオルを裏返す ・「右手はお願いします」
4、安定した 姿勢にする	・「安定して座るために、左手で右手を持ち、テーブルの上に、手の平を下に、右手の肘まで置いて頂けますか？」【図3】
5、食事をお 持ちする	・「それでは食事をお持ちします」 ・「この位置でよろしいでしょうか？」 ・茶碗が左、おわんが右になるように【図4】
6、食事の説明	・「本日の食事は、おかゆと味噌汁、サバの味噌煮、おひたしです」 ・「おかゆと味噌汁は熱くなっていますので、気をつけてください」
7、食事介助	・「まず口を湿らすために、お茶を召し上がってください」 ・「それでは召し上がって下さい」

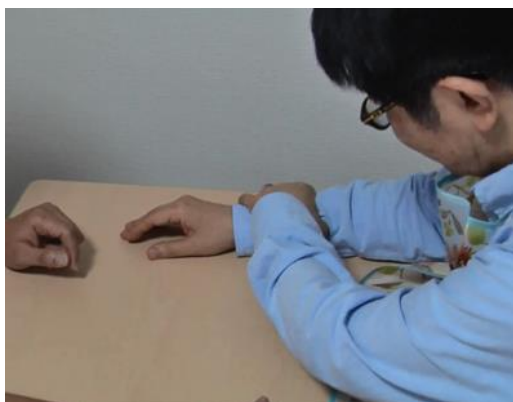
介助ステップ	介助内容
7、食事介助	・「おいしいですか？」 ・お箸の使用を勧める ・「最近お箸の練習をされていると聞きました。 サバも骨を取って食べやすい状態にしていますので、お箸で召し上がってみませんか？」 ・「お箸の使い方、上手になりましたね」 ・山田さん箸を置く ・「もうお済みですか？」 ・「全部召し上がられましたね」 ・「ご気分はよろしいですか？」



【図 1】
正面、目の高さを合わせる



【図 2】
エプロンをテーブルの上に出す



【図 3】
右手の平を下に、右手の肘まで
テーブルの上に置く



【図 4】
茶碗が左、おわんが右
(右片麻痺のため、箸は左手で持てるように置く)

介助演習 課題2 「排泄介助」

確認事項

1、介護する方の状況（麻痺、他）をよく理解する。

鈴木花子さん 女性 左片麻痺 左空間無視

※利用者の麻痺側で介助

※失語症の方には、Yes、No で答えられる「閉じた質問」を。

2、健康状況確認

- 1) あいさつ
- 2) 気分を尋ねる
- 3) 座り心地確認（ポータブルトイレの安定性）

3、介助内容を説明する

4、福祉用具の置いた場所を伝える。

5、介助

- 1) 浅座り
- 2) 立ち上がった後にもご気分の確認

演習課題 2（排泄介助）

鈴木花子さんは、毎朝 8 時ごろ、イスからポータブルトイレに移乗して排泄をします。

一部介助による排泄の介助を行ってください。

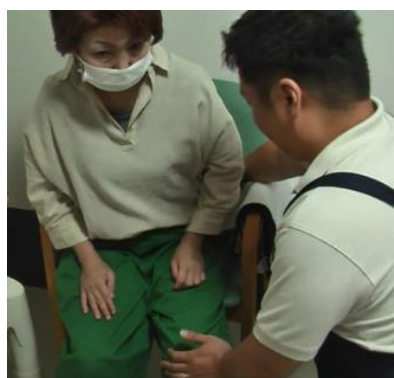
（左片麻痺、左空間無視）

介助ステップ	介助内容
1、健康状態確認	（立位置：相手に向かって左側）（目の高さを合わせる）【図 1】 ・「鈴木さん、おはようございます」 ・「起きていらっしゃいますか？」
2、介助内容の説明	・「今 8 時ですが、いつものようにポータブルトイレをお使いになりますか？」 ・「しっかり座れていますか？」 ・「それでは準備してまいりますので、しばらくお待ちください」
3、浅座りにする	・「ポータブルトイレを近づけます」 ・ポータブルトイレのフタを開ける ・「トイレは右側にあります」 ・「浅く座り直しますので、左側でお手伝いさせていただきます」 ・「右手でイスの端を持って下さい」 ・「右腰を前へずらして下さい」 ・「右手で左足を半歩前へ出して下さい」 ・「右手を元に戻して下さい」 ・「左側は、私がお手伝いさせていただきます」 ・右手腰、左手ひざの上へ置き、前へずらす【図 2】



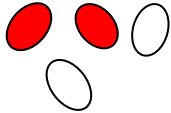
【図 1】

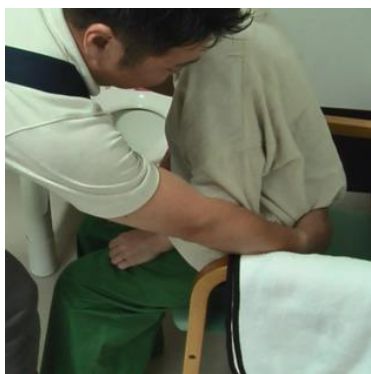
相手に向かって左側、
目の高さを合わせる



【図 2】

介助は左側（麻痺側）
右手腰、左手ひざの上

介助ステップ	介助内容
4、ポータブル へ移る 健足 患足 	・「右手を膝の上へのせて下さい」 ・左手脇の下、右手腰【図 3】 ・介助者右足、利用者の左足の外側につける ・「前かがみで立ち上がってください」 ・「ご気分はいかがですか？」 ・両手で腰をつかむ【図 4】 ・「右手でポータブルトイレの遠い方の肘かけを握ってください」【図 5】 ・「右足を 1 歩前に出してください」 ・「右足を軸に、ポータブルトイレの方へ回転して頂けますか？」 ・「左足は私がお手伝いいたします」（1 歩下げる）【図 6】 ・「右足を 1 歩下げて頂けますか？」 （ポータブルトイレに右足がつくまで）【図 7】 ・「ズボン（+パンツ）を下ろさせて頂きます」 ・「前かがみでゆっくり座ってください」 ・「座り心地はいかがですか？」 ・「ひざ掛けを掛けさせて頂きます」 ・「右手で左手を持ち上げてください」 ・「それでは終わった頃に参ります」



【図 3】
左手脇の下、右手腰

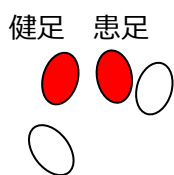


【図 4】
両手で腰をつかむ

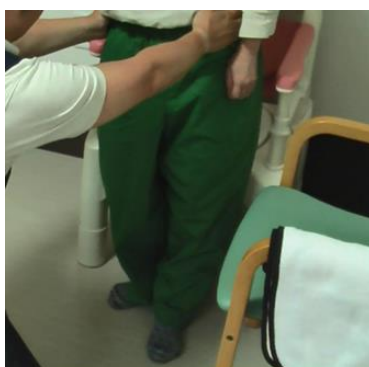


【図 5】
遠い方の肘かけを右手で
握ってもらう

介助ステップ	介助内容
5、イスへ戻る	・「お済みですか？」 ・「トイレットペーパーをお使いください」 ・ひざ掛けを上げて視線を外す ・「ひざ掛けを元に戻します」 ・ズボンを膝まで引き上げる ・「ご自身でできるところまでズボン（+パンツ）を引き上げてください」 ・「ひざ掛けを外してよろしいでしょうか？」 ・「イス」にもどりますので、右手でポータブルトイレの右の肘かけにつかまって頂けますか？」 ・介助者右足、利用者の左足の外側につける【図8】 ・「前かがみでゆっくり立ち上がって頂けますか？」 ・「めまいがしませんか？」 ・「ズボンを上げさせて頂きます」 ・「左足は私がお手伝いして、1歩前に出させて頂きます」 ・「右足を軸にして、お尻をイスに向けて頂いてよろしいですか？」 ・「右手はイスの近くの、ポータブルトイレの肘かけにつかまって頂けますか？」 ・「右足をイスの方へ、引いて頂けますか？」 ・「前かがみになって座ってください」 ・ポータブルトイレのフタを閉める ・「体調はいかがですか？」（立ち位置 左側） ・「ちゃんと座れていますか？」 ・「膝の痛みは大丈夫でしょうか？」 ※おしぼりで利用者の手を拭く（終了）



【図6】
右足を軸にトイレの方へ回転
トイレに近づくように左足を
下げる



【図7】
右足を1歩下げる
右足を1歩下げる
(トイレに右足がつくまで)



【図8】
介助者右足を、
利用者の左足の外側につける